

鼓腹撃壤

① 帝堯陶唐氏は、帝嚳の子なり。である

② 其の仁は そいつくしみの気持ち 天のごとく、其の知は神のごとし。ようだ

③ 之に就け この人近づいて見る ば日のごとく、之を望め ようでこの人遠くから眺める ば雲のごとし。ようだ

④ 平陽に都す。都を置いた 荊茨は 萱で葺いた屋根の軒端 翦らず、土階三等のみ。切りそろえ 宮殿に登る階段は

⑤ 天下を治むること五十年、天下治まるか、治まらざるか、治める ないの

億兆己を戴く 万民が自分天子として ことを願ふか、己を戴く 自分崇める ことを願はざるかを知らず。ないの

⑥ 左右に問ふに、知らず。側近 尋ねるがわから 外朝に問ふに、知らず。ない役人 尋ねるがわから ない

⑦ 乃ち微服して そこで 大通り でかけた 康衢に遊ぶ。粗末な身なりをして

⑧ 童謡を聞く 帝堯はそこで に、曰はく、聞いた その歌に

「我々が 我々多くの 民衆の生活 成り立たせている の 立つる は

爾の極 あなた様 におかげで ない 匪 こととは ざる ない 莫し

⑨ 識らず知らず 知ら 帝の則に順ふ」と。天帝 手本 順っている

⑩ 老人有り、哺を が 含み腹を鼓し、壤を撃ち 足で 拍子を取って 歌うことには 歌ひて曰はく、食べ物 ほおぼって 敲き 地面踏みならし

⑪ 「日出でて作し が 日入りて息ふ 入ったら 休息する

⑫ 井を鑿ちて飲み 井戸 掘っ 水を 田を耕して食らふ 食べ物を 食べる

⑬ 帝力何ぞ 天帝の力 はどうして 私に有らんや の ありましようか （及びましようか） いや、及びません と。